

あとがき 最後までお読みいただいた方へ翻訳者から

南京の虐殺事件を取材した外人記者は言っています。「みんな簡単に告白するよ。べらべらとね、でも、本に書くとか名前を出すと言つと急に押し黙つてもう二度としゃべってくれません。」と、

結局、真実とはなんだろう。伝聞情報では真実にはならないのか。

裁判の結果は確かに尊重されなければならない。でも、それが真実とは限らない。事実の一部なのです。だから、このシーグレイプ氏の本が真実であるか問われても証明できない部分が多いでしょう。伝聞情報に証拠能力はないのですから。

しかし、嬉しい事に、現在毎年のように古いアメリカの公文書が公開されます。

ある点ではやはりアメリカはオープンな国です。びつくりするような事実が今後明らかになる可能性は大にあります。(各国の記者たちがスクープを求めて一生懸命研究しています。)

何故、日本が敗戦した時、皇室が許されたのか。何故日本があのように高度経済発展ができたのか。この本を読んで始めてが納得する事ができるのではないのでしょうか。

だから、国民はこの本の内容を知るべきだし、次の世代に伝えなければならないのではないか。

平成の時代になり、少し皇室の権威が落ちてきたように思います。各国が日本の侵略戦争を批判したり、今頃南京虐殺の映画ができたりします。日本人としては落ち着かない気がします。

また、平成天皇の「韓国にゆかりを感じる」との「ゆかり発言」などは、昔であれば考えられません。なにが皇室で起っているのか！

シーグレイプ氏は明治以降の日本の歴史を一つの史観で描こうとしました。つまり、天皇は飾り物で闇の支配者が裏から支配したのだと。

明治時代は元老の伊藤博文、つぎに山県有朋、昭和になり一時的には大正皇后節

子が握りその後、軍部と枢密顧問団。戦後の占領時代は日本人クエーカー教徒が握り、その後は寡頭勢力がにぎった。ということでしょう。

私のライフワークは古代史ですから過去に遡るのは大好きです。

シーグレイプ氏は日本の古代を簡単に説明しています。ここから引用・・・

大和民族は新しくやってきた民族である。最初に稲作文化をもって九州の低地に中国から移民し、より好戦的な朝鮮半島からの移民が北方山岳地帯に定住した。いくつかの戦闘があり移民の文化は混血していった。そして最も強い血族が封建制の階級制度を定着させた。：略・東進み、今の京都や大阪のある本州へ渡り、だんだんとアイヌを圧迫しその土地をとりあげた。

こうして最強氏族の卑弥呼を初代に大和川のほとりで朝廷ができた。：以上：

この見解に対して私は異論があるが、しかし、実にさばけた解釈でびつくりする。

日本の事を知らないと思う外人がこのように書いているのに、日本人の歴史家は違う。日本民族が古来より国土に存在し今に至る、なんていつかは迷信にしても、単一民族であるといつ建て前はいまだに健在である。

日本の支配者達はどのようにして成立したのか。これを考察するには歴史を紐解かなければなるまい。

この事が今の私のライフワークであります。このシーグレイプ氏の著作を翻訳するといふ大仕事に一年も費やしてしまい少々あせっています。さらに、彼の次の作品「GoldWarriors」も訳し始めました。これではなかなか歴史に戻れません。

日本の歴史には色々なごまかしがあります。私が当面証明したいのは、倭の国が韓半島にあり新羅に吸収された。「こと」です。ほとんどの日本人は卑弥呼が日本人のご先祖まで天皇家の元だった。と思ってるのではないのでしょうか。もちろん私も疑いもなくそう思っていました。魏志倭人伝を素直に読むとそう思っても無理はない。でも、真実はどうだったのか。これを研究中です。さらに、平成天皇のゆかり発言は現在の歴史

家は説明しようとしませんが、天皇自らの発言です。これは重い。桓武天皇の御生母、高野新笠が百済王の子孫であることは分かっています。それ以上のことは明らかではないのです。

ここに、古代の秘密があります。聖武天皇の時代に満州の渤海から使節が着きました。じつは大変な使節なのです。渤海の王様から「本枝百世」、日本と渤海は本家と新家ではないですか仲良くしましょ。と言ってきたのです。続日本紀のこの記事は正しいとされています。しかし、学校でも教えていないし、学者はこの件については説明しようとしません。どうすると高句麗族の渤海と日本が親戚になるのが、渤海と日本はその後契丹が渤海を滅ぼすまで数十回の使節がやり取りされました。

参考までに、渤海の使節は日本海を横切り出羽の国から入っています。渤海と日本が親戚ならば、義経が生まれ故郷の満州に戻ってジンギスカンになったことはそんなにとっぴな話ではないのだ。義経がジンギスカンになった事実がなぜおとぎ話になってしまったのか。これも私が証明したい中の一つです。

それにしても、何故歴史を捏造しなければならなかったのか。これを考察する必要があります。七世紀、白村江の戦いがありました。ここで倭と百済の連合軍と唐、新羅の連合軍が戦い倭は歴史的敗北をした。恐らく倭はここでほぼ消滅したのでしよう。そのあと新羅はその勢いで九州の大宰府(恐らくは伽耶国、任那)へ侵入した。このあたりの歴史は抹殺されている。九州を征服した新羅はその後難波、奈良へ進出する。ここは捻じ曲げてある。私は壬申の乱こそ実は新羅が日本を占領した時のことと考えている。現在国民から隔離されつつある高松塚古墳にはこのあたりの歴史を解く鍵があるはずだ。どうして現代科学をもってしてカヒを発生させてしまったのか。私は意図的だと思っている。国民に見せたくない何かがあるのだらう。

最初の捏造は天智、夫武の頃です。新羅は占領した日本で従来の歴史資料を焚書し大々的に歴史を歪曲した。これが「日本紀」(現存せず)として作られた。しかし、この後道鏡のころに今度は百済が政権を奪回し、「日本紀」を焚書して捏造した。これが現存する「日本書紀」です。ただしあくまでこれは百済の政権を正当化する意図はあったも

の一般国民には関わりのないものです。現代と違い国書を見るのは特殊な人間であり、あくまで彼らの自己満足だったと思います。つまり、中華の国における「天命思想」のように、日本の国体は天皇家が受け持つのが正しいことを説明したものです。このあたりの捏造は世界共通の標準的な捏造でしょう。

しかし、明治になってからはまったく別の大きな改造がなされました。つまり、我々が古代から信仰、と言つより習慣として親しんできた神道を国家神道に改造しさらにその頂点天皇を祀り上げることになったのです。

重大な事を言わなければなりません。明治天皇は偽物だったのです。本当です。

ウィキペディアで「大室寅之助」を参照してください。大混乱です。長州が幕末まで大事に匿っていた南朝の子孫と言われる大室寅之助は大政奉還の直前に御所に入ったのです。鹿島昇著「裏切られた三人の天皇」にこれ以上ないくらいに証明されています。

伊藤博文は下級武士以下の出で寅之助とは相撲仲間だった。

何故、伊藤博文のような下級武士が宮中であれほど出世できたのか。下賤な興行である相撲が何故国技にまでなったのか。これではつきりします。

又、ほかにも状況証拠があります。明治天皇の妻である昭憲皇太后は明治神宮に「昭憲皇太后」として祀られています。通常は生存中の最高の位、即ち皇后で祀られるべきなのです。大正天皇がそれを断固拒んだためにそのままになっています。明治神宮も大変に困ったようです。一度明治神宮のホームページをご覧下さい。また、真に不思議な事に明治天皇がなくなる少し前に天皇自らが北朝天皇家は正統ではない」と述べているのです。教科書的に言つて彼の父、孝明天皇は北朝です。自分も北朝ではないのか。自分の地位を否定し、自分の父をも否定するのは何の為か。

実は天皇は南朝だったのだが、まわりの皇族は全て伏見家の人間だ。この伏見家から悪名高い東久邇、北白川、竹田、朝香が出ている。きっと南北朝の争いに嫌気がさした明治天皇が北朝へ嫌がらせをしたのだらう。

偽物の天皇を掲げた伊藤博文はその嘘を隠す為に明治憲法を作り、万世一系を絶対とし神聖にして犯すべからずとせざるを得なかった。そして、西洋を見習いキリスト一

神教を日本に持ち込み天皇を神様にした。伊藤がどこまでの悪意があったのかは不明だが、少なくともその理屈を知っている元老が生き残っているのは暴走する事はあまりなかった。問題は「大正天皇が死に、元老がいなくなり」つまり明治天皇の出自を知る人がいなくなったと言っ事。(憲法を作った趣旨を知らない人たちが憲法の欠陥を利用した。統帥権だ。結果的に昭和天皇は本気で君臨してしまっただ。ここに我々の大きな悲劇があつた。しかしこのあたりの解釈は素人の私の手に残るこのくらいにしておう。

伊藤はむしろ山県なのだろう。(明治天皇の権威を絶対とするために従来の歴史の中で、古代の大皇家の歴史、特に韓半島、蒙古地域に残る天皇の祖先の足跡消しに奔走する事になつた。これは想像以上に大規模にわたり、韓半島にある歴史書をほとんど全部没収し日本に持ち帰つた。これはいまだに返却されていない。また、高句麗の広開土王の石碑を改造、各地での墳墓の略奪、対馬の宋家に伝わる史書の没収などなど、枚挙いとまがありません。

一体、これほどまでに日本が隠した「事」が何であるのか。ほとんどの人はそんなこと興味ないな。と言つのですが、日本が何故、南進と北進に分かれたのか、あるいは、何故あれほどまでに朝鮮に対し憎悪にも似た感情でひどいことをしてきたのか。その理由が知りたいではないですか。

現在、ニートライトの連中がTV上で「大東亜戦争仕方がなかつた論」を盛んに広めていきます。私も日本人として、やむにやまれぬ状況であつた事は理解したい。そして、暗号が解読されていたにも拘らず真珠湾の攻撃を見逃した米英の謀略は日本をどうしても戦争に巻き込もうとする陰謀の存在を証明している。

確かに仕方がなかつたこととするので国民は救われそうなきもします。でもちょっと待つて欲しい。

何故国民がこのように世界から非難されなければならないのか。国民は赤紙一枚で駆り立てられそして死んでいった。あるいは何の罪もない一般大衆は原爆で死に、空襲で死に、あるいは一文無しになつた。その被害者である国民の一体どこに責任があるのか。従来の日本人の自虐史観を正す為に新しい歴史教科書を作る会ができ、扶桑社から

右翼的な教科書ができました。どんなに言葉でごまかそうとしてもやってしまった事が事実である以上消えるわけがない。過去をごまかしても将来はない。事実を認めることは明日につながるのです。

賠償すれば良いとか、頭を下げる事ではなく、誰が命令し誰が実行したのか。あるいは天皇はどこまで関与したのか。これをはきりさせないことには国民は絶対に救われな

いのではないが。一億総懺悔は結構だが、国民は何を、誰に懺悔するのか。国の命令を忠実に実行した人間が何の責任を取れとつのだ。上が責任を負わないのなら国民は義務を負つ必要はないのではないか。

シグレイブ氏が言っています。誰も責任を取っていない。何人かの連の悪い軍人を犠牲にして本当の責任者が救われたのだ。

何も昭和天皇一人を責任者にするのではない。また、それが誰であるのか私には分からない。しかし、誰かが命令しなければ何も始まらなかつた以上、命令があつたはずだ。これはあくまで国内問題であり国際裁判とは関係ない。つまり、国民は今でもどうして戦争が始まり、誰の命令で何が行われたのかわからない。

戦争が終わりに真に責任を負うべき人たちが国を支配したからにちがいない。

シグレイブ氏の Cold Warriors のブログのなかに公式には戦争は一部の軍事狂信者のせいで始まり、犠牲がひどいため戦時中のエリート即ち皇族、財閥、やぐざ、そして良識ある官僚たちが終結させたと聞かされた。

天皇裕仁を含む多くの日本のエリート達は戦争を始めたときよりもはるかに金持ちになつて戦争を終わらせた。そして占領される直前とそのあとで何人かは数十億ドルの財産を作つた。我々は、終戦時にはひどく荒廃し食べるのがやっとだと聞かされた。実際には、驚くべきことにほとんどの工場や住宅は壊されたりひどく破壊されたということはなく、工業基盤はほとんど破壊をまぬがれた。広く宣伝されたほとんどの被害はウサギ小屋に住む何百万人の一般市民であり、君主にとってはそれらの被害はもの数ではなかつた。」とある。一体、これは本当なの

だろうか。

戦争を体験した人と話をしても真に煮え切らない。あまりにも戦前の教育が徹底していたが為、いまだにマインドコントロールが抜けないのか、或いは、自分達が率先して悪い事をしてきたのか、それは分からない。しかし、靖国神社の参拝に関しても、そもそも明治になって新しく作られた国家神道の象徴なのだから本来の日本古来の神道とは全く関係ないのだ。天皇の為に死んだ人を祀るのは勝手だし、少なくとも天皇だけは参拝するのが常識でしょう。首相が行く必要はないと思うしどちらでも良い。昭和天皇が行かないのは単に彼がうそをつきただけでしょう。

最後にもう「ムスミ」の問題です。戦後になって大本営発表がウソだらけだったことが明らかになった。ムスミはそのウソを垂れ流していた事を何ら反省していない。又、マッカーサーの言論統制で自由な報道ができなかったことも明らかになっていない。命に関わるからうそもやむを得なかったとは分かる。しかし、うそもつくこともあることを認めなければならぬ。『真実を追究しています。』と言うウソはもうたくさんだ。

「この新聞は時の政府、スポンサー、そして圧力団体の意向に背くこと以外はできません。真実と思われる事を報道したいと思っています。」と断わりを入れるべきだ。

最近ようやく「酸化炭素が温暖化の原因だ」と言うことがうそだと報道されるようになったが、真実を伝えることができなくせにいかにも自分たちが正しいような偽善者ぶりはやめてもらいたい。納豆事件で捏造を騒いでいるが冗談じゃない。テレビから捏造を取ったら何も残らないのではないが、世論の誘導など日常茶飯事じゃないが。

国民を戦争もやむなしと思わせるように導いていった大きな責任、「非国民」の名の下に真実の叫びを抹殺した責任を今一度考えていただきたい。国民もテレビ、新聞、週刊誌が本当の事を書くはずがないことを知って欲しい。報道は両論併記が原則なのに一方的に人を裁いている。私はニュースを見ても簡単には信じない。必ずネットでその裏を読む。そうする事で簡単に欺瞞がはつきりする。

今回の印刷は第二版です。実は二月末にこの原書の日本語版が出版されることになりました。ヤマタ王朝」と言いを前です。よく出版できたものだと思います。出版社が

右翼系だと聞き二重に驚きました。広くこの本が読まれることは私にとっても喜ばしい事です。もう少し早く発売されていたらこんなに苦労しなくても良かったのにも思います。シグレイプ氏の次作「GoldWarriors」を翻訳していますが、内容的にはむしろ日本版が難しそうです。一年後にまた発表できたらと思います。

私の下手な字を解読しタイプしてくれた愚妻に感謝します。又、どうしても分からない構文を何度も教授していただいたAさん、大分から励ましてくれた鬼塚さん、天皇のロザリオの著者、下手な翻訳を最後まで読んでいただいたBさん、くじけそうになりながらも最後まで続けられたのはみなさまのおかげです。

ここに感謝の意を表します。

了

平成十九年四月

古代史研究者？

XXXX